

尿失禁は国際禁制学会において「社会的、衛生的に問題となる客観的な尿漏れを認める状態」と定義をされています。意に反して尿が漏れてしまう状態でありますから生活をjする上でいろいろな影響を及ぼしてしまはずなのですが、実際に医療機関で治療を受けられている方は男性で15パーセント、女性では3パーセントにすぎないとする調査結果があります。実際、市販の失禁用シートを長い間使用し続けていた方もいらつしやいましたし、「恥ずかしくて相談することが出来なかった」「何科を受診したらよいのかわからなかった」「年をとってしまったのだから当たり前だと思っていた」などの声を聞きます。数回の受診の後でカミングアウトされる方もいらつしやいます。泌尿器科を受診されている方がそのようなのでから我々が考えているよりもたいしたことではないのかもしれないし、まだまだ受診へのハードルが高いのかもしれない。

しかし旅行やおしゃれを楽しめず、気分が塞ぎがちとなったり、家族や介護者の負担を増やすことにもなり得、そのことが一層、本人の精神的負担となることがありますから問題は決して小さくないのだと思います。尿失禁に対する治療効果はとも高く、薬物療法や外科療法だけでなく患者さん自身が膀胱訓練や骨盤底筋体操を行うことで治療又は減少させることが出来ますので、たとえ「ちょい漏れ」であっても一度専門医を受診していただいたら良いのではないかと思います。

尿失禁には特殊なものを除けば一過性尿失禁、腹圧性尿失禁、切迫性尿失禁、反射性尿失禁、溢流性(いつりゅうせい)・自分の意に反して、たまつた尿が少しづつ漏れてしまつ(尿失禁、機能性尿失禁、痴呆による尿失禁)があります。これらを鑑別するためにどうしても幾つかの検査が必要になります。受診された方に対しては問診と一般的検査に加え尿検査、超音波検査、「主要下部尿路症状スコア」など特化した質問票に回答いただきます。そして後日できれば排尿した時間、排尿量など一日の排尿状況を記録する「排尿日誌」をつけていたたり、尿パッドなどを用いて失禁量を測定していただくこともあります。これらは少し面倒くさいかもしれませんが大事な情報と考えますし、ケアを考えていくためにもお願いしたい検査です。これらに加えレントゲン検査、内視鏡検査、尿流動体検査、血液検査をおこなうことがありますがお自身が思っているより体にダメージがあつたり、悪性疾患や、内科的疾患が見つかることがあります。

これらその後、治療にあたります。治療には行動療法、薬物療法、外科療法、自己導尿や電気刺激療法、神経ブロック、集尿器装着などを行います。意外と早く改善をみることもあります。ケアを続けながら長い目で見ていただくことも必要です。

高齢化や認知症に伴い日常生活動作能力が低下していたり尿意を表現できなかつたりすると、衣服を脱ぐのに時間がかかつたりトイレにたどり着くのに時間がかかつたりするために漏らしてしまうことがあります。こういった排泄の問題は、本人の治療のみならず、住宅環境の整備や介護者の知識の増進と負担の軽減、社会環境の整備など広く協力してケアにあたるのが欠かせないものと考ええます。

日曜・休日に実施している医療機関									
月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
3	6	新座	堀ノ内クリニック	内	483-2222	志木	幸町クリニック	消内・内・外・肛	485-5600
	13	朝霞	ひるま小児科クリニック	小	466-0320	新座	ひまわり診療所	泌・内・外・皮	485-9788
	20	新座	くりはら内科クリニック	内・消内・循内	042-438-6606	志木	西川医院	内・消内・外	471-0074
	21	和光	恵クリニック	内・消内・皮	464-9893	朝霞	ふじい整形外科	整外・リハ	450-1188
	27	朝霞	三浦医院	内・小・皮	461-3802	和光	萩原医院	産婦	461-2046



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。